



栄養不良対策として 微細藻類スピルリナを利用するための 政府間機関

国際連合常任監視団



1996年国連食糧農業機関(FAO)による世界食糧安全保障に関するローマ宣言

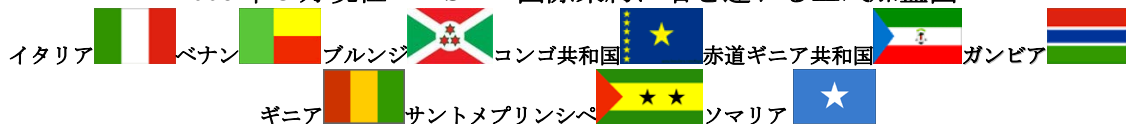
国連食糧農業機関(FAO)が招聘した世界食糧サミットに集った各国の首脳および代表は、すべての人は、十分な食糧を受ける権利、飢餓のない暮らしをおくる基本的権利とともに、安全で栄養のある食糧を入手する権利を有することを再確認する。ここにおいて、まず**2015年までに栄養不足人口を半減する**という目標をかかげ、すべての人のための食糧安全保障、ならびに、全世界で飢餓撲滅の目標を達成するよう引き続き努力するという、我々の政治的意志と共通の国家コミットメントを誓約する。

何世紀も前から知られているようにスピルリナは食用藻類である。好条件の下で急成長し、タンパク質やビタミンの優れた供給源となる。国によっては伝統的な食品であり、また、新しい健康食品として人気が出始めた国もある。極度の貧困と飢餓を削減するための、「国連ミレニアム開発目標#1」に沿った栄養失調症の改善にも役立つ。

IIMSAM について

食用微細藻類の利用のための協議会である、政府間機関スピルリナプログラム(IIMSAM)は、深刻な栄養失調対策としてのスピルリナ利用の普及に努めている。IIMSAMは二つの国際合意の基に設立され、この合意は国際連合条約集¹に収められている。**CISRI-ISPは、2003年3月5日付けの決議E/2003/212を踏まえて、国連経済社会理事会(ECOSOC)に国際連合常任監視団として正式認可を受けている。**

2006年3月現在 IIMSAM 国際条約に名を連ねる正式加盟国



国連経済社会理事会 (ECOSOC) と国連目標の枠組みの中で IIMSAM に物流支援と指導を行っている協力国



現場における協力団体または支部への技術物流支援国



IIMSAM はまた、下記の国にある政府後援のスピルリナ農場、または製造施設とのコミュニケーションを維持している

¹食品として、微細藻類スピルリナの科学的研究と人道的利用における協力の自由協定(国際連合条約集 No. 37542) 食品微細藻類の利用と相互協力的な科学研究所。(国際連合条約集 No. 37543) ².添付の国連総会第二委員会の決議は、後の日付の第 61 回総会会期中に持ち出される決議案のスポンサー-D.R.によって廃案となった。



加盟国歓迎

IIMSAM は、50 名の善意の現地代表者の名簿を用意しており、技術的、科学的、運営上の支援と生物学的技術助言を得ている。これには下記のスピルリナの世界的権威の面々も含まれている。

Dr. Ripley D. Fox	フランス IIMSAM 科学技術研究所名誉ディレクター・所長
Dr. Roger Adoukpe	ベナン共和国、Pahou 地域スピルリナプログラム CREDESA 責任者
Dr. Francisco Ayala	研究者、Solarium Biotechnology 最高経営責任者、チリ、スピルリナ生産者
Dr. Miao Jian Ren	中華人民共和国、Guang Zhou 科学技術委員会会長、光バイオリアクタースピルリナ室内生産テクノロジー発明者
Dr. Ravelo Vololonavalona	研究者、マダガスカル共和国、トリアラ大学スピルリナプログラム責任者
Dr. Hubert D. Chastel	フランス、名誉上院議員、科学研究名誉事務局長、フランスバイオテクノロジー-CISRI-ISP 微細藻類科学研究所、メキシコ、Soso Texcoco スピルリナ農場所長

ニューヨークの常設事務局は、日々の外交上のロビー活動、国連経済社会理事会の枠組みにおける権限に見合う資金調達、取り組みの調整拠点となる。

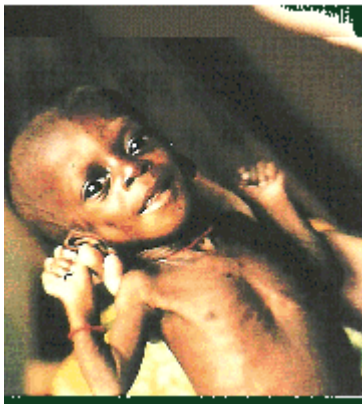
現在、イタリアやフランスの政府や、民間セクター、東部南部アフリカ共同市場（COMESA）らの協力を得て、このスピルリナの収穫を構築するという計画がいくつか存在する。COMESA は、IIMSAM 支持を表明しており、ローマ在住の IIMSAM 事務総長との協定のもと、各国のスピルリナセンターが、毎年何百人もの栄養失調の子供や大人の命を助けるために多大な量を迅速に生産することが最善の対策になるというプログラムを実行することを支持している。国際連合常任監視団による外交の第一線でのロビー活動が行われると共に、世界中の深刻な栄養失調問題に対する前述のプログラムを実施するのに必要な資金を集める権限を持つ非営利団体であり我々のシスターパートナーである米国インターナショナル・スピルリナ財団を通して、市民社会に対しても同様の啓蒙活動が行われる。

IIMSAM は国連食糧農業機関 WFAO、世界保健機関 WHO、国連世界食糧計画 WFP とニューヨークにある国連本部のそれぞれの連絡事務所同様に、本部レベルでの連携を維持している。IIMSAM は、スピルリナを扱う世界中の主要団体と関係がある。これには、スイス・ジェノバに設立された公益事業団体 Antenna-Technologies、フランス・IIMSAM 学術研究所、アメリカの Earthrise Farms 社、世界最大の中華人民共和国の Lake Shangai をはじめとする中国企業、チリの Solarium Biotechnology 社、インドの Centre for Science for Villages、マダガスカルの Toliara 大学が含まれている。今日、スピルリナは少なくとも 22 カ国で生産されている。すなわち、ベニン、ブラジル、ブルキナファソ、チャド、チリ、中国、コスタリカ、コートジボワール、キューバ、エクアドル、フランス、インド、マダガスカル、メキシコ、ミャンマー、ペルー、イスラエル、スペイン、タイ、トーゴ、アメリカ、ベトナムである。



ニューヨーク国際連合常任監視団代表 Remigio Maradona 大使は、『国連の政策の範囲内における“IIMSAM のロビー運動並びに外交上の活動は、世界は、毎日深刻な栄養失調で、いたずらに死んでいく 40,000 人もの子供たちに注意を向け、これとの戦いを優先しなければいけないというメッセージを届けるのに役立つであろう。この数は死亡率に影響を与えるものである』と述べている。

深刻な栄養不良に苦しんでいる子供



スピルリナを服用して 90 日後の同じ子供

Same child after 3 months
treatment with SPIRULINA



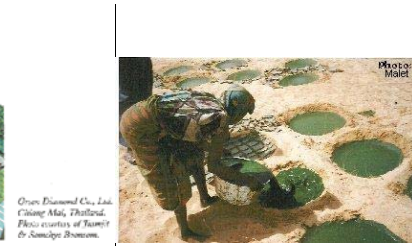
世界各国のスピルリナ農場



メキシコ、テスココ



タイ



チャド共和国

IIMSAM の活動は、下記の国連決議案に基づき導かれている

FAO による 1996 年の世界食糧安全保障に関するローマ宣言

- (55/2) 2000 年 9 月 8 日国際連合の主要加盟国によるミレニアム宣言
- (60/3) 2001 年から 2010 年の期間を世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力のための国際の 10 年として公式に宣言
- (59/202) 食糧への権利



IIMSAM Permanent Observer Mission to the United Nations

884-DHCC-United Nations Plaza, No. 200468 New York, N.Y. 10017 電話/ファックス:

1-212-918-6425 電子メール: iimsam-un@pomun.org